

第56回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和4年4月12日（火）17：00～18：40

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

池田 一義 一般社団法人埼玉県商工会議所連合会 会長（WEB参加）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授（WEB参加）

小谷野 和博 埼玉県中小企業団体中央会 会長（WEB参加）

坂木 晴世 国際医療福祉大学大学院 准教授（WEB参加）

讚井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授（WEB参加）

三村 喜宏 埼玉県商工会連合会 会長（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

三須 康男 危機管理防災部長（WEB参加）

金子 直史 福祉部長（WEB参加）

山崎 達也 保健医療部長

板東 博之 産業労働部長（WEB参加）

石井 貴司 副教育長（WEB参加）

星 永進 保健医療部参事

本多 麻夫 保健医療部参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア オミクロン BA2 について

- オミクロン株の感染者で、エクモで対応した症例 200 件程度を解析したところ、そのうち約半分以上が 59 歳以下であり、その内訳はワクチン未接種、肥満等のハイリスク患者がほとんどであった。こうしたことから、県からワクチン接種の啓蒙を引き続きお願いしたい。（竹田委員）

イ 陽性者・無症状者・陽性率の状況について

- 無症状者の割合が低いことから、無症状の陽性者が検査で拾いきれていないという推測は、現場の実感と一致している。（竹田委員・川名委員・岡部委員・坂木委員）

ウ モニタリング検査の使い方について

- ハイリスクの施設等での感染拡大を防ぐために、目的を持って、ハイリスクの部分に絞って検査をしていくというのに賛成。（岡部委員）
- コロナとの共存のステージに入りつつあるので、本当にリスクの高いところに絞ってやっていくということが重要。（川名委員）

エ 調整本部からの依頼について

- コロナ陽性者で、他疾患にも罹患しており、手術を急ぐ症状がある場合、どこの病院が受けるかはかなり大切な問題である。仕組みをつくらないといけない。（光武委員）

オ その他

- 現在、新規感染者が下げ止まっている状況であり、今の状況でおさまっていれば、医療と経済を両立させているとも言える。経済を促進するという動きは、このバランスを崩さないように進めていく必要があるのではないか。（川名委員）